

平成 28 年 5 月  
那覇自然環境事務所

## 第 2 回 推薦書案ブラッシュアップ打合せ概要

日時：平成 28 年 5 月 17 日（火）9:00-12:00 、13:00-17:00

場所：那覇第一地方合同庁舎 中会議室

参加委員：土屋先生、米田先生、太田先生、久保田先生、星野先生、横田先生

打合せの主な内容は以下のとおり。

1. 前回の打合せを踏まえ修正した第 2 章クライテリア(ix)関係の記述について、以下の方向性で概ね了（その他、各専門分野から個別具体の指摘・提案多数）
  - ・地史を反映した中琉球と南琉球の種分化のパターンと主要な陸生動物種の事例を一覧表で整理し、その中から、各パターンの代表例を 1 例ずつコラム的に説明。
    - ※ ヤンバルクイナは、地史と種分化のパターンに当てはめ難いが、地域のフラッグシップ種であることから、中琉球のパターンにかかる文章中で記述
  - ・地史の変遷推定図(p62)の引用図（Ota, 1998）は生物学者の視点で描かれている。地質学分野から見ても違和感がないよう、琉球弧の発達史の図は改める（東北大・井龍教授に確認）。
2. 前回の打合せを踏まえ修正した第 2 章クライテリア(x)関係の記述について、以下の方向性で概ね了（その他、各専門分野から個別具体の指摘・提案多数）
  - ・分かりやすさ、見やすさの観点から、冒頭で生物相形成過程について記述（地史を反映した生物の固有化・種分化以外の）。また、各分類群の種数、固有種数・率、絶滅危惧種数・率等を、表を用いて整理。
  - ・動物に比べると植物の記述が少なくなるが、分子系統の研究が動物に比べ進んでいないため、ある程度はやむを得ない。
  - ・英訳の際の生物名の表記については、哺乳類や鳥類など英名があるものは「英名+学名」で、昆虫は“○○の仲間”という「一般的な英名+学名」で、植物は英名がほとんど無いため「学名」で表示（過去の推薦書と同様）。
3. 第 6 章モニタリングについては、以下の方向性で概ね了（その他、各専門分野から個別具体の指摘・提案多数）
  - ・キーストーン種は明確に決められないので、キーストーン種を主要指標とするという考え方は困難。保全のためのモニタリングが幅広く行われているので、実施していることは網羅的に示し、主要指標はフラッグシップ種(代表的な種)を対象に考える。
  - ・H27 第 2 回科学委員会で示した、実施中のモニタリングの表を活用。主要指標とするフラッグシップ種は、「2. a. 3.2 地史と陸生生物の種分化」で遺産の価値を示している種を

バランスよく取り上げ、全体をカバーしている旨、説明する。

#### 4. その他、今後の作業にかかる発言

- 4 島でシリアル推薦する上での、つながり、まとまり（シリアル推薦の理由）の明確化が必要（未だ個々の記載に留まっているように感じる。どの要素が欠けても駄目というものが必要）。
- 種分化のパターンの整理で、中琉球と南琉球の種分化パターンと固有な生物のセットの違いを踏まえて、生物地理学的な観点で「歴史的なメタ群集」が揃っている、つまり、多様な履歴とそれを反映した生物相の島があり、それらが 1 つのパッケージとしてまとまっている、という説明ではないか。

以上